

Ⅱ 遠洋トロール漁業に関する水産海洋研究座談会

主催 水産海洋研究会
日本トロール底魚協会

日時：昭和46年1月18日(月) 10時～17時

会場：大日本水産会会議室

コンピナー：三谷文夫(遠洋水研) 宇田道隆(東海大)

話題および話題提供者

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. アフリカ東岸漁場調査 | 小山武夫(東海区水産研究所) |
| 2. 北西大西洋漁場開発調査報告 | 畑中寛(遠洋水産研究所) |
| 3. ニューゼーランド・トロール調査結果 | 工藤文良(水産庁漁船課) |
| 4. 東ベーリング海におけるスケトウダラの分布について | 高橋善弥(遠洋水産研究所) |
| 5. 北太平洋の海山と底生魚類 | 千国史郎(遠洋水産研究所) |
| 6. 行政の立場からみた遠洋トロール漁業の現状と問題点 | 尾島雄一(水産庁海洋二課) |
| 7. 海外水産海洋情報 | 宇田道隆(東海大学海洋学部) |
| 8. 総合討論 | (座長) 木部崎修(遠洋水産研究所) |

1. アフリカ東岸漁場調査

小山武夫(東海区水産研究所)

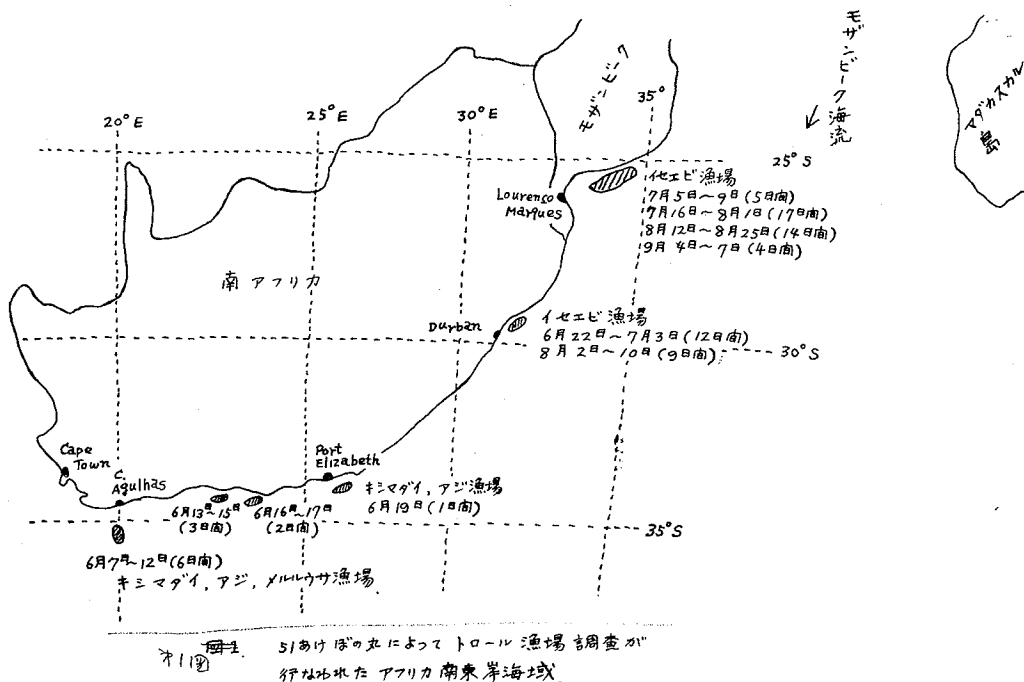
昭和45年度海洋水産資源開発事業の一環として、第51あけぼの丸(1500トン、2000馬力)によりアフリカ東岸海域(第1図)のトロール漁場調査が1970年6月上旬から9月上旬にわたって行なわれた。調査は引続き1971年3月頃まで継続される予定である。ここでは著者が乗船調査にあたった前半、6月～9月についてその調査結果を報告する。

調査の主体となった漁場はモザンビーク、ロレンソマルケス沖合、および南アフリカ、ダーバン沖合で主にトロールによるイセエビの深海操業が行なわれた。なお、大型トロールによるイセエビの深海操業は日本では類例がなく、トロール史上画期的なものといえる。

そして、調査結果を要約すると

1. アフリカ南東岸とマダガスカル島の間海域を流れるモザンビーク海流(通常約3.5ノットの暖流系南下海流)の主流からはずれた流れのよどむ水域(海底砂泥地帯)にイセエビ

(*Palinurus vulgaris* Latr.) は群をなして生息する(第1図)。



第1図 51あけぼの丸によってトロール漁場調査が行われたアフリカ南東岸海域

2. ロレンソマルクス沖合の漁場においては8月中旬、脱皮エビの集団と推定されるイセエビの大魚群に遭遇、8月14、15、16日の3日間に約25トンを漁獲した(平均体長220mm 平均体重317gで2~3年令群と推定される)。水深は320~330m、海底底質砂泥、底水温9.5~11.0℃であり、脱皮時期には深海の砂泥地帯で大群をなすことが確認された。イセエビは元来、岩礁地帯に生息し、これを漁獲するのにカゴ、あるいは、刺網を使用するのが常識とされていたが、トロールでも漁獲可能なことが立証された。このような現象はアフリカ海域だけでなく、広く他の海域においても考えられる。
3. ダーバン沖合漁場では6月下旬、水深150~160mの海底砂泥地帯で抱卵エビの集団に遭遇(底水温13~14℃)、6月24、25日の2日間に約10トンを漁獲した(これも平均体長220mm、平均体重318gで2~3年令群と推定される)。これにより抱卵時期においても脱皮時期と同じくイセエビは集団をなすことが明らかとなった。この抱卵集団は前述脱皮集団との関連性が考えられ、脱皮、抱卵、ふ化等、生殖過程を周年にわたって調査する必要がある、これは漁場価値判定の上からも重要な課題と考えられる。もし、年に2度脱皮が行われるものとする、5、6月抱卵、8、9月脱皮、11、12月抱卵、2、3月脱皮とい

う想定も考えられないことはない。

4. 6月下旬から9月上旬にかけてロレンソマルクス沖合、およびダーバン沖合でイセエビ操業を6日間行ない約36万尾、約88トン（製品生産トン数で約75トン）を漁獲した。1日平均1.4トンの漁獲であり、脱皮、抱卵等、集団をなす適切な時期を選べば興味深い漁場といえる。
5. ダーバンおよびロレンソマルクス沖合漁場においてはタイ類、太刀魚等が多少漁獲されるが量的に少なく、イセエビ以外は産業的にほとんどみるべきものがない。
6. アグラハスバンク北部海域（第1図のアグラハス岬沖合よりポートエリザベス沖合）において6月上旬の12日間操業、漁場水深80~120m、表面水温15~18.2℃、底水温8.5~13℃でキシマダイ約44トン、アジ約80トン、メルルウサ約10トンを漁獲した。アジは1日平均約7トン、キシマダイは1日平均約3.5トンの漁獲であり、アジはアフリカ南岸水域全域にわたってかなり豊富に分布しているようである。なお、漁獲されたアジの平均体長は、398mm、体重713gとやや大型のものであり、キシマダイは平均体長257mm、体重332gであった。

2. 北西大西洋漁場開発調査報告

畑 中 寛（遠洋水産研究所）

蔵王丸（日本水産所屬、2,500トンのスタントローラー）による昭和44年度北西大西洋漁場開発調査の後半期の操業に乗船し（44年10月~45年3月）調査を行なった。以下にその概要を述べる。

1. 操業状況

Newfoundland 東方沖合から Georges Bank にかけて大陸棚縁辺部で操業し（第1図）、Argentine, Redfish, Squid, Butterfish 等を中心として、およそ3,500トンを漁獲した（第1表）。

2. 魚種別調査結果

1) Argentine (*Argentina silus* ASCANIUS)

今次調査において最も大量に漁獲され、全漁獲物中の51%を占めた。従来当水域ではあまり漁獲されていなかったが、相当量の潜在資源量があると考えられている。